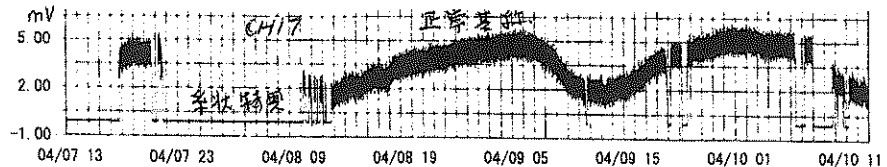


原稿校了後の前兆変化について

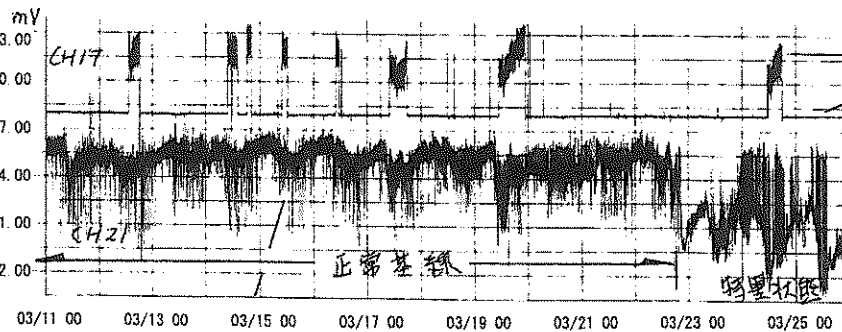
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報
前兆徐々に静穏化傾向 早い場合今月末終息の可能性有 中間報告

長期に渡って完全糸状特異が継続していたCH17も、3月初旬から断続的に正常基線を記録しだし、最近では右のとおり、正常基線継続時間も長くなってきた。

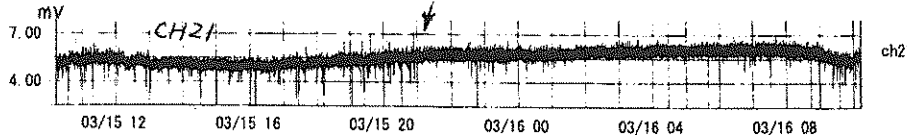


3月初旬～3月下旬迄継続したCH21の正常基線、3/22夜から再び特異状態(右図下基線)

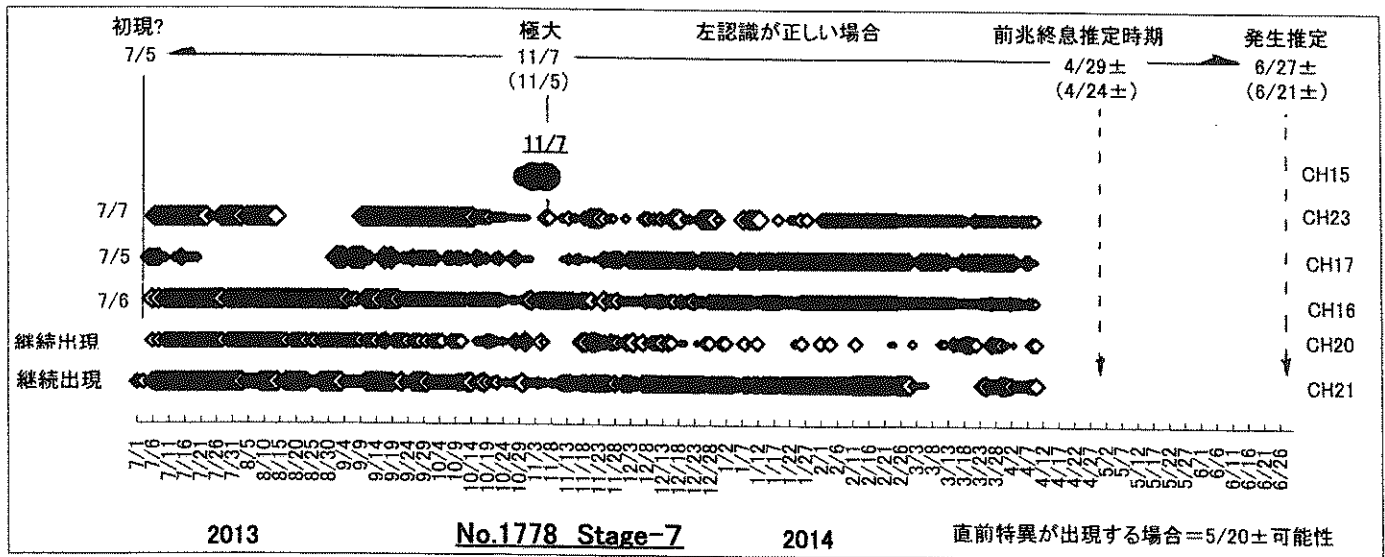


正常基線 (これは日周変化)
糸状特異
CH21 正常基線部の下向きレバは流量工一

右図上基線はCH17. 断続的な正常基線復帰が認められる。



3月初旬～下旬まで継続したCH21の正常基線。完全に正常な通常基線。これだけ長い期間の正常基線は実に5年以上ぶり。



2008年7月初現、5年9ヶ月以上前兆継続の特殊前兆No.1778の続報です。前兆は段階的に変化し、現在は第7ステージ段階にあると認識されます。第7ステージの前兆出現状況は上図のとおりで、極大=2013年11月7日認識。これ以外に新たな前兆極大も認められておりません。初現認識は、2013年7月5日±で、この認識が正しい場合は、今月4月29日±に前兆終息が認められ、静穏期Ippに突入する可能性が示唆されています。HP続報No.061並びにFAX実験観測情報No.2481及びNo.2483で報告のとおり、CH21の静穏正常基線継続出現は実に4年ぶりとなり、3月下旬まで続いたことから、これ程の長い期間の正常基線継続は5年以上ぶりとなりました。CH21は上波形の

とおり、3月下旬から再び特異状態が出現していますが、完全な糸状特異ではなく、変動が認められる特異です。CH17も糸状特異が継続していましたが、3月初旬から断続的に正常基線を記録する様になり、最近では上波形のとおり、正常基線出現時間も長くなって参りました。逆上って検討した結果、上図のとおり2013年7月初現の可能性と認識しています。これが正しい場合は今月末に前兆終息の可能性有。来月5月以降迄前兆が継続する場合は、実際に前兆が終息した時点で、極大との関係から、第7ステージが示す時期を計算予定です。現状、徐々に前兆静穏化傾向が見える途中経過報告まで。変化があれば続報します。
C) Copyright 2014 YSBO 八ヶ岳南麓天文台